

こ さつ とう こう ざん い おう じ
古刹 東光山 医王寺

曹洞宗のお寺です。筵内の東部、医王寺山の中腹にあり、すぐ下を唐津街道が通っています。山門からは、久保・庄・古賀・花鶴浦、更に玄界灘が望めます。

開基は行基と伝えられていますが、縁起には宗像ノ君秋晴が、その子秋足の夭逝を供養して建てた

とあり、秋足の妻、

難波部安良賣の事績が、弘仁5年(814年)と『類聚国史』に出ていますし、夫妻の墓(今、不明)もあったとされ、新宮町上府の横大路家の檀那寺でもあり、もと天台宗であったとの伝えもありますから伝教大師との関係が深いことが考えられます。

境内の内外には古い古墳が多く、古賀東中学校の校庭からは、市内ではここだけの葺石古墳が2基見つかっています。

もと、鞍手郡金生村瑞石寺の末寺と言いますが足利末期、立花城の戸次道雪の帰依した寺で、道雪の葬儀は彰亭和尚が導師をしています。その頃は、筵内近郊と筑後一円に末寺が20



9月18日、秋葉神社から須賀神社への御神幸の様子

ヶ寺以上ありました。『福岡県地理全誌』によれば、明治初年には薬王寺の東前寺・小山田の長勝禅寺など4ヶ寺が末寺として出ています。

境内の観音堂には如意輪観音・閻魔大王・脱衣婆・達磨などの坐像があります。

寺宝としては、雪舟筆と伝えられる釈迦三尊の三幅があり、また後世模作の銅範(音を出す法具)があります。

境内にはまた、秋葉神社が祀られています。幕末頃勧請したと思われませんがもと医王寺山の頂きにあった大日堂に祀られていました。

元来、熊野神社の祭礼で御神幸があっていたのをそのまま9月18日に此処から須賀神社へ御神幸とし、放生会と言って村中のお祭りではありますが、曹洞宗の僧侶によって執り行われています。

山門の外の丘に一字一石経塔があります。点々と刻まれた梵字から碧潭和尚の時に山田地蔵尊を供養したものと考えられます。その近くから板碑の頭部が見つかっていますし、登り口に六地藏もいられますから古い墓所であったと考えられます。

この登り口にも嘉永年間の大乘經典碑(一字一石経塔)があり、元禄15年の庚申塔もあります。

また、境内には曾根兄弟(信州の武士)の墓がありましたが今は不明です。同兄弟にゆかりの江戸時代筵内に領地を広く持っていた斎藤家の幼児の墓が2基(慶応4年と明治4年)あります。



にょいりんかんのん
如意輪観音



えんまだいおう
閻魔大王



だつえは
脱衣婆



だるま
達磨